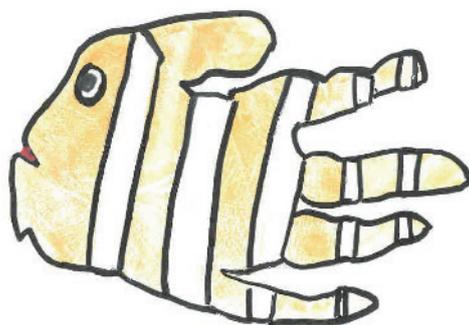


証券コード：8061

西華産業株式会社



第99期 第2四半期

株主通信

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日



西華産業株式会社
SEIKA CORPORATION



ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第99期(第2四半期)株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員

櫻井昭久

Q まずは、2022年3月期(第99期)第2四半期の業績について、お聞かせください。

A 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行がはじまって、間もなく2年を迎えようとしています。この間、度重なる緊急事態宣言等の発出により、経済・社会活動が制限され国内経済は厳しい状況で推移しましたが、ワクチン接種が広く浸透し、感染状況はようやく落ち着きを取り戻しつつあります。

このような経済環境のもと、当第2四半期における当社グループ業績は、化学・エネルギー事業およびグローバル事業の売上が増加した結果、売上高は404億52百万円(前年同期比19.9%増)となりました。また、国内外子会社の業績が順調に推移した結果、営業利益は13億4千万円(同36.8%増)、経常利益は13億15百万円(同19.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億98百万円(同31.6%増)となりました。

顧客の設備投資の延期等、新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、昨年10月に子会社化したセイカダイヤエンジン(株)の業績が寄与したことに加え、Tsurumi (Europe) GmbHグループおよび西暁貿易(上海)有限公司の海外ビジネスが順調に推移したことで増収増益となりました。

Q 2022年3月期(第99期)通期の見通しについて、お聞かせください。

A 2022年3月期(第99期)の連結業績予想としては、取扱高1,300億円、売上高885億円、営業利益28.5億円(前期比10.4%増)、経常利益31億円(同6.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益19.5億

円(同28.4%減)と期首の予想に変更はありません。

電力および化学・エネルギー事業につきましては、火力発電設備の投資抑制の影響がありますが、バイオマス発電や小型水力発電などの再生可能エネルギーへの取り組みを推進してまいります。

また、産業機械およびグローバル事業につきましては、日本ダイヤバルブ(株)、Tsurumi (Europe) GmbHグループおよび西暁貿易(上海)有限公司の業績が堅調に推移していることに加え、化学等の一部業界においては設備投資の回復が期待されます。

なお、現進行期から「収益認識に関する会計基準」などを適用し、主に電力事業などの発電設備商談における代理人取引契約に係る収益が利益の純額のみ認識する方法に変更されました。この会計基準の変更により、売上高の数値が大幅に減少することになりましたが、当社のビジネス規模を表すため従来の売上高基準として当社独自に「取扱高」として開示しています。

Q 3ヵ年計画の中期経営計画「Re-SEIKA2023」が折り返し地点を迎えましたが、その進捗状況と今後の展開をお聞かせください。

A 中期経営計画「Re-SEIKA2023」は、本中間期で丁度折り返し地点を迎えました。

中期経営計画の最終年度であります2023年3月期(第100期)は、連結営業利益37億円、連結当期純利益25億円を数値目標とし、①グループ収益の拡大②収益基盤の強化③新たな収益源の開拓④経営基盤の強化、を基本戦略に掲げ取り組んでおります。

特に日本ダイヤバルブ(株)、Tsurumi (Europe) GmbH、セ

イカダイエンジン(株)の3社は、ビジネス環境に適合した戦略を進め、グループ収益の拡大に寄与しています。

西華産業単体は基幹の発電関連事業が脱炭素化の流れを受け、新設発電設備商談の減少が鮮明化し、新たな収益源の開拓を加速していくことが急務となりました。再生可能エネルギー分野で小型水力発電やバイオマス燃料、産業機械分野で工場内設備の点検計測用ドローンビジネスなど新たな取組みも開始されています。

また、業務効率改善やグループ人材活用の各プロジェクトを立ち上げて経営基盤の強化を図ると共に社会貢献プロジェクトも開始し、中期経営計画の基本方針である「強く価値ある西華産業グループの達成」に向け、グループ一丸となり取組んでおります。

Q 10月14日の適時開示において、東証新市場区分でプライム市場を選択されましたが、どのように考えられたのでしょうか。

A 当社は1961年東京証券取引所第一部上場を果たし社会的な信用を得ると共に多くの株主様のご支援によりこれまで成長してまいりました。一昨年から金融庁は証券市場の活性化に向けた検討を進め、漸く昨年2月に東京証券取引所より新しい市場区分等の概要が発表されました。

特に新市場区分の最上位に位置するプライム市場は、多くの投資家の投資対象になりうる規模の時価総額を持ち、より高いガバナンス水準を備え、投資家との建設的な対話を中心に据えて持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にコミットする企業向け市場と位置づけられました。

自社の理念やガバナンス水準などを照らして、プライム市場が当社にとって最適な市場か否か取締役会や経営会議で議論を重ねてまいりました。

当社を取り巻くビジネス環境が様変わりする中で最上位のプライム市場の選択は、波乱万丈幾多の困難に遭遇すること必定ではありますが、プライム市場が企業に優れた収益基盤と高いガバナンス水準の構築を求めており、これに向けた取組みは、機関投資家や株主様への高い利益還元の実現に繋がれると判断しプライム市場の選択を決断いたしました。

また、当社社員およびグループ社員がプライム市場に属する企業人としての誇りを日常業務の中にビルトインすることにより、仕事の質を高め、そして働き甲斐を感じ取り、当社グループ成長の大きな原動力になると考えています。

プライム市場で獲得する高い信用を武器に、成長戦略を社員と共に確実に実行し、株主様を含めすべてのステークホルダーから認められる「価値ある企業」に変貌出来ると考えております。

Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

A 現在、世界的な脱炭素化の加速など当社を取り巻くビジネス環境は大きく変化し、コロナを契機に行動様式の変容など社会環境も様変わりし、当社は歴史の分水嶺を迎えています。

プライム市場の求める企業像に照らし合わせながら、実効性高い成長戦略を策定し、来年4月に公表したいと考えています。

不確実やリスクに挑戦し、創造と変革を重ねながら未来永劫成長し続ける西華産業を築いてまいります。

株主の皆様には今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

	2021年3月期実績	2022年3月期第2四半期実績	2022年3月期予想
取 扱 高	1,362 億円	690 億円	1,300 億円
売 上 高	— 億円	404 億円	885 億円
営 業 利 益	25.8 億円	13.0 億円	28.5 億円
経 常 利 益	29.0 億円	13.1 億円	31.0 億円
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	27.2 億円	6.9 億円	19.5 億円

(注)売上高につきましては、「収益認識に関する会計基準」等を適用した数字となっております。

電力事業

電力会社や共同火力向けに、ボイラー、ガスタービンなどの発電設備、環境保全設備の販売およびアフターサービスを提供しております。
また、原子力発電所向けにセキュリティ設備や消火設備などを販売しております。



電力プラント

2022年3月期第2四半期の概況

取扱高	売上高	セグメント利益
22,282百万円 (前年同期比)△28.7%	4,436百万円 (前年同期比)△10.3%	458百万円 (前年同期比)+1.4%

化学・エネルギー事業

石油精製、化学、製紙、製鉄等の事業会社向けに発電設備や製品を製造する設備の販売およびアフターサービスを提供しております。



化学プラント

2022年3月期第2四半期の概況

取扱高	売上高	セグメント利益
17,409百万円 (前年同期比)+40.4%	10,553百万円 (前年同期比)+116.6%	200百万円 (前年同期比)+351.6%

産業機械事業

新素材、繊維、フィルムやプラントエンジニアリングなど幅広い産業分野の顧客に対して、設備や機器を販売するほかメンテナンスも提供しております。
また、電子機器用プリント基板の他、環境保全用計測機器なども幅広く取り扱っております。



リチウムイオン電池用関連設備

2022年3月期第2四半期の概況

取扱高	売上高	セグメント利益
20,824百万円 (前年同期比)△4.5%	16,950百万円 (前年同期比)△8.1%	263百万円 (前年同期比)△56.1%

グローバル事業

本事業は海外13か国、26拠点で事業展開中であり、西華産業グループとしての総合力を発揮し、国内外における産業界の発展に貢献しております。
欧州：公共工事用水中ポンプの販売・レンタル事業、産業用ロボットの販売など
北米：日系自動車業界向け基板実装関連設備の販売など
アジア：化学・繊維その他一般産業向け機械設備、原材料の販売など

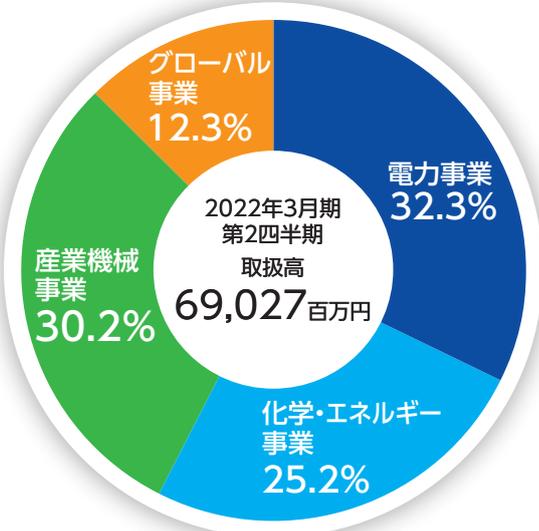


Tsurumi (Europe) GmbH
取扱製品：水中ポンプ

2022年3月期第2四半期の概況

取扱高	売上高	セグメント利益
8,512百万円 (前年同期比)+55.8%	8,512百万円 (前年同期比)+55.8%	374百万円 (前年同期はセグメント損失117百万円)

▼取扱高構成



「収益認識に関する会計基準」等適用について

代理人取引に係る収益については、

- ▶ 客先から受け取る対価の総額を収益として認識(総額計上)としておりましたが、特定仕入先との取引については手数料のみを収益として認識(純額計上)する方法へ変更。
- ▶ 従来基準で「売上高」として計上していたものは、今後「取扱高」として開示。
- ▶ 損益についての影響はございません。

当社の取引形態

一般取引

- ▶ 製品の売買契約を客先・仕入先の双方と締結する取引
- ▶ 客先との契約責任を一義的に負うのは当社



代理人取引

- ▶ 当社名義で(代理人として)客先と契約を締結・製品受渡・代金回収
- ▶ 仕入先(委託者)からの手数料が当社の収益となる



西華産業グループの社会貢献活動の取組み

当社グループは、豊かな社会の実現に貢献する「価値あるグループ企業」であり続けたいと考えており、社員の被災地でのボランティア活動に対する支援、日本赤十字社等を通じた寄付および地域社会との交流など、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

取組みその1 「赤い羽根共同募金運動」

西華産業は、社会福祉課題への対応と多発する自然災害による被災者支援を行う趣旨に賛同し、社会福祉法人東京都共同募金会を通じて「赤い羽根共同募金」へ継続的に寄付を行っております。

この度、東京都等主催の「第70回東京都社会福祉大会」において東京の社会福祉の発展に功績があったとして、『東京都共同募金会会長表彰』の対象となり表彰いただくこととなりました。

例年、表彰式は都庁において都知事出席のうえで執り行われますが、今年度については新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から賞状と記念品を授与いただく予定であります。

取組みその2 日本ダイヤバルブ(株)における地域との社会交流

子会社の日本ダイヤバルブ(株)におきましては、地域に根差した社会交流活動を行っております。その中の1つとして近隣の小学生を招待し工場見学を実施しており、未来を担う子供たちに「ものづくり」を身近に感じてもらえる機会となっております。

産業用の各種バルブを製造する同社は、半世紀以上にわたる豊富な経験と確かな技術力を通じて、引き続き豊かな社会の実現を目指してまいります。



表紙の説明

西華産業は、難病児の夢の実現とその家族の楽しい思い出づくりを手伝う「公共社団法人 ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」の活動を継続的に支援しております。

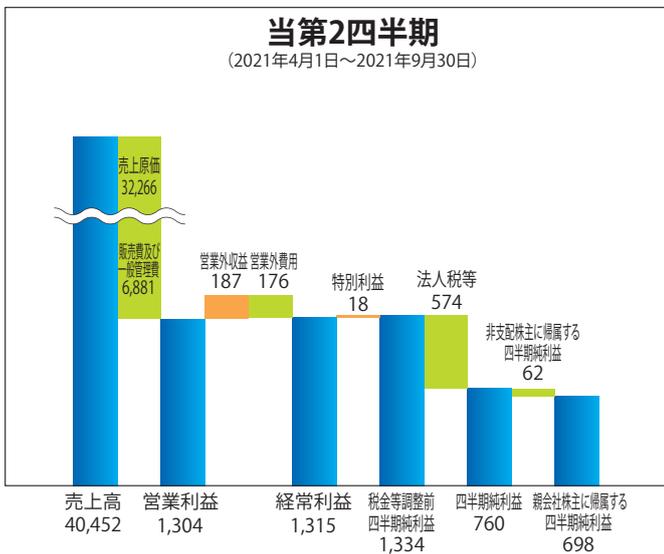
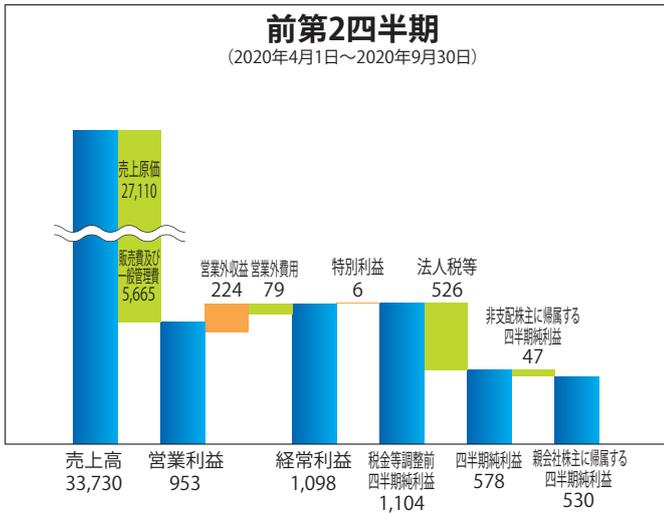
同団体は難病と闘っているお子さんとそのご家族と一緒に旅行を通じて楽しい体験や時間を過ごせるよう東京エリアへ招待しておりますが、近年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い旅行事業を実施できないことから手形・足形アートを利用した記念品の製作を進めております。

同団体の活動について当社株主通信を通じて皆様に知っていただきたいという思いから、アートの一部を提供いただき、当社株主通信の表紙に掲載いたしました。



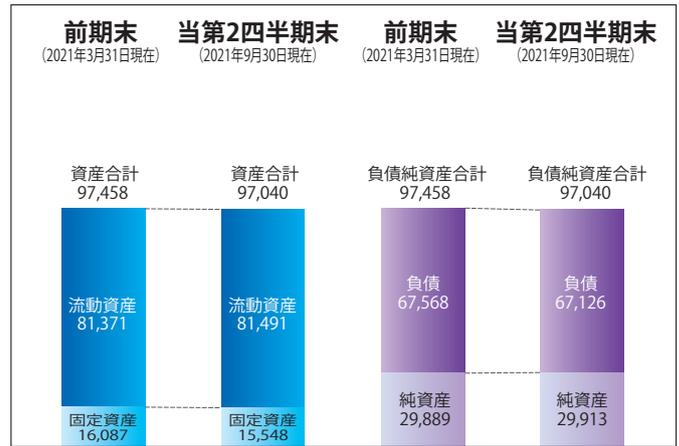
損益計算書より

(単位:百万円)



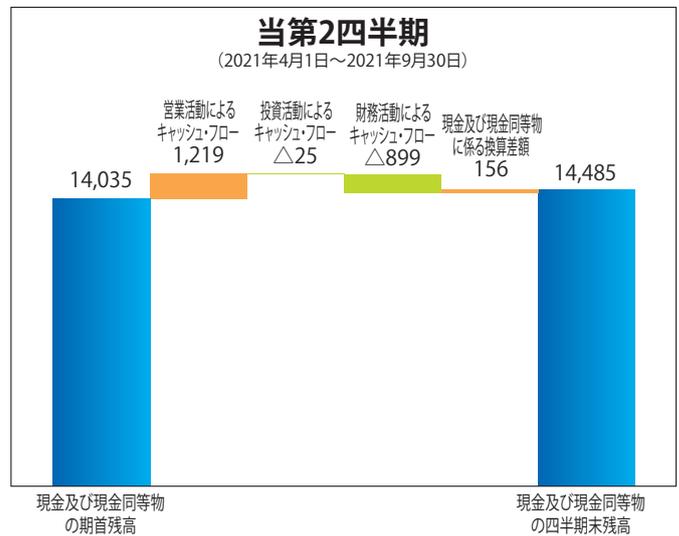
貸借対照表より

(単位:百万円)



キャッシュ・フロー計算書より

(単位:百万円)



主要財務指標ハイライト

単位:百万円

	前期末 (2021年3月31日現在)	当第2四半期末 (2021年9月30日現在)	増減 (%)
資産合計	97,458	97,040	△ 0.4
流動資産	81,371	81,491	0.1
固定資産	16,087	15,548	△ 3.4
負債合計	67,568	67,126	△ 0.7
流動負債	64,536	64,132	△ 0.6
固定負債	3,032	2,994	△ 1.3
純資産合計	29,889	29,913	0.1
負債純資産合計	97,458	97,040	△ 0.4

	前第2四半期 (2020年4月1日～2020年9月30日)	当第2四半期 (2021年4月1日～2021年9月30日)	増減 (%)
売上高	33,730	40,452	19.9
営業利益	953	1,304	36.8
経常利益	1,098	1,315	19.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	530	698	31.6

当社の概況 (2021年9月30日現在)

設立年月日 1947年(昭和22年)10月1日

資本金 67億28百万円

事業所 (国内) 本社：東京都千代田区丸の内三丁目3番1号
 大阪支社：大阪市北区堂島浜一丁目4番4号
 支店等：札幌、室蘭、名古屋、敦賀、岡山、福山、
 東広島、広島、徳山、山口、四国、福岡、
 北九州、長崎、大分、延岡
 (海外) 支店：台北、ソウル、シンガポール
 駐在事務所：ベトナム

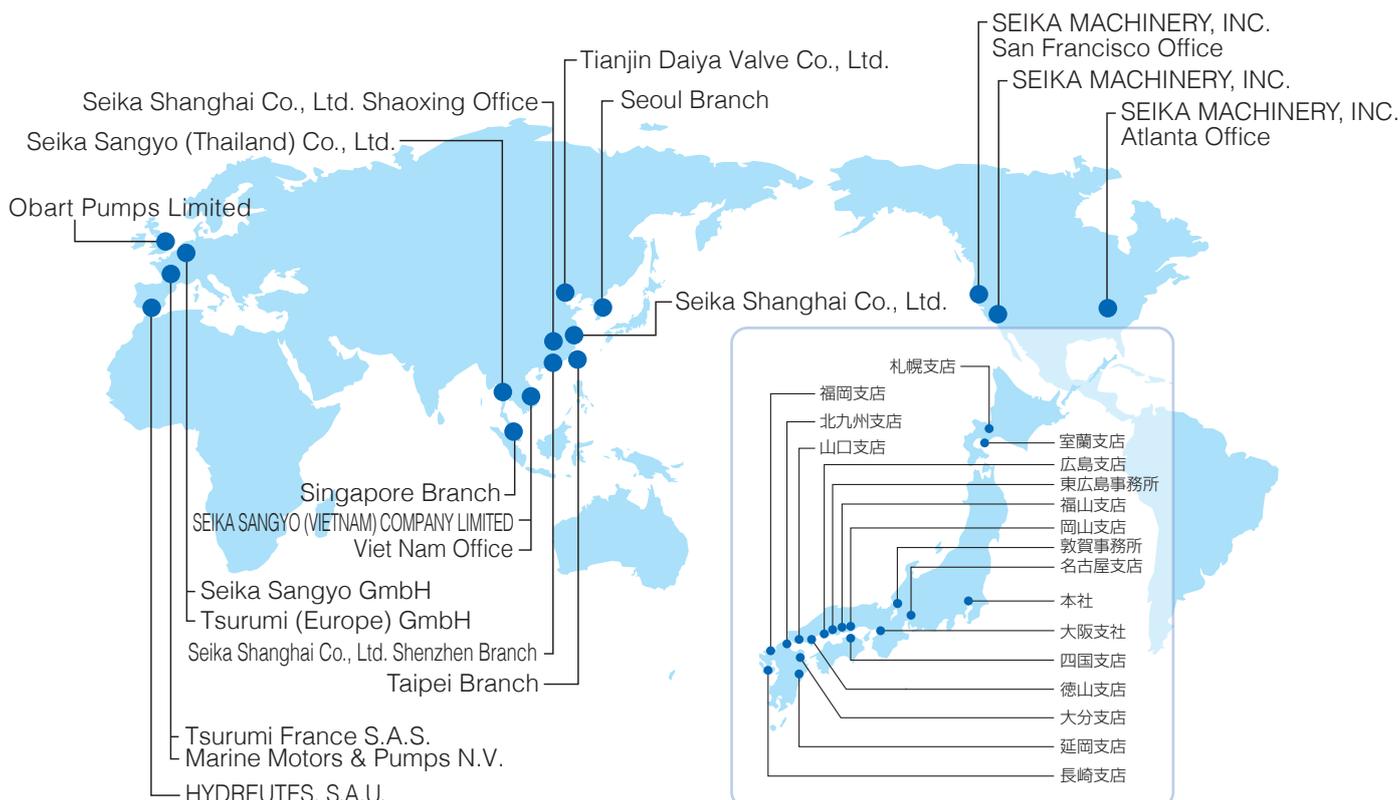
従業員数 987名(連結) 321名(単体)

主な子会社 (国内) 日本ダイヤバルブ株式会社
 株式会社竹本
 西華デジタルイメージ株式会社
 敷島機器株式会社
 セイカダイヤエンジン株式会社

(海外) Seika Sangyo GmbH(ドイツ)
 Tsurumi (Europe) GmbH(ドイツ)
 Tsurumi France S.A.S.(フランス)
 HYDREUTES, S.A.U.(スペイン)
 Marine Motors & Pumps N.V.(ベルギー)
 Tsurumi UK Limited(イギリス)
 Obart Pumps Limited(イギリス)
 SEIKA MACHINERY, INC.(アメリカ)
 西擘貿易(上海)有限公司(中国)
 天津泰雅閥門有限公司(中国)
 Seika Sangyo (Thailand) Co., Ltd.(タイ)
 SEIKA SANGYO (VIETNAM) COMPANY LIMITED(ベトナム)

役員 (2021年9月30日現在)

代表取締役社長	櫻井 昭彦
取締役常務執行役員	高橋 正憲
取締役常務執行役員	川名 康正
取締役上席執行役員	後藤 基
取締役上席執行役員	長谷川 智昭
取締役(社外取締役)	白井 裕子
取締役(社外取締役)	深尾 隆久
取締役(社外取締役)	宮田 清巳
監査役(常勤)	高橋 昌志
監査役(常勤)	阿部 正典
監査役(社外監査役)	毛野 泰孝
監査役(社外監査役)	中村 嘉彦
上席執行役員	福里 克彦
上席執行役員	横山 幸則
上席執行役員	増田 博久
上席執行役員	平山 龍彦
上席執行役員	高橋 紀行
執行役員	碓井 一俊
執行役員	尾崎 雅一
執行役員	木下 雄貴
執行役員	野尻 竜彦



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 期末配当金受領株主確定日 3月31日
 中間配当金受領株主確定日 9月30日
 定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <https://seika.com>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

◆お知らせ◆

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- (2) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- (3) 市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主様からお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

株式の状況



株式の状況 (2021年9月30日現在)

株式数および株主数

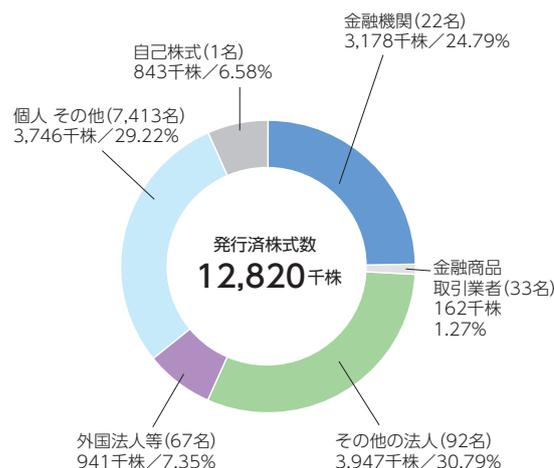
発行可能株式総数 37,705,800株
 発行済株式の総数 12,820,650株
 株主数 7,628名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,239	10.35
三菱パワー株式会社	826	6.90
光通信株式会社	795	6.64
株式会社三菱UFJ銀行	400	3.34
株式会社山口銀行	352	2.95
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	336	2.81
日機装株式会社	318	2.66
三菱電機株式会社	286	2.39
株式会社鶴見製作所	267	2.23
株式会社三井住友銀行	234	1.96

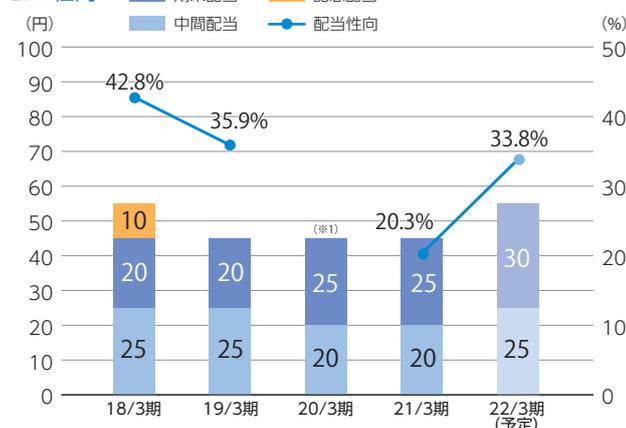
(注) ①千株未満は切り捨てて表示しております。
 ②当社は、自己株式843,001株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
 また、出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



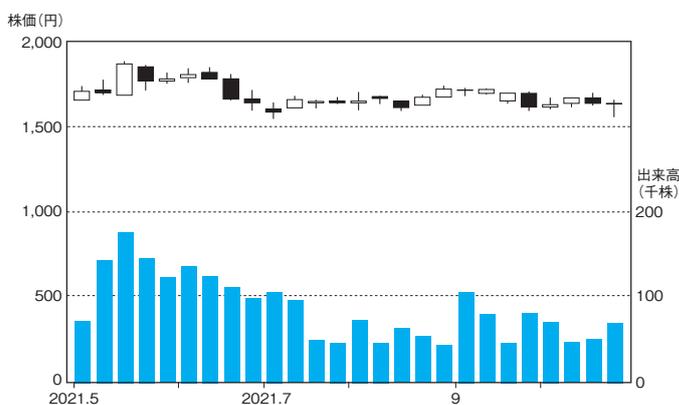
(注) ①千株未満は切り捨てて表示しております。
 ②発行済株式数には自己株式843千株を含んでおります。

配当性向



(※1) 2020年3月期の配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

株価および出来高の推移



SSC 西華産業株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 (新東京ビル)
 Tel 03-5221-7101 URL <https://seika.com>

<https://seika.com>

西華産業

検索